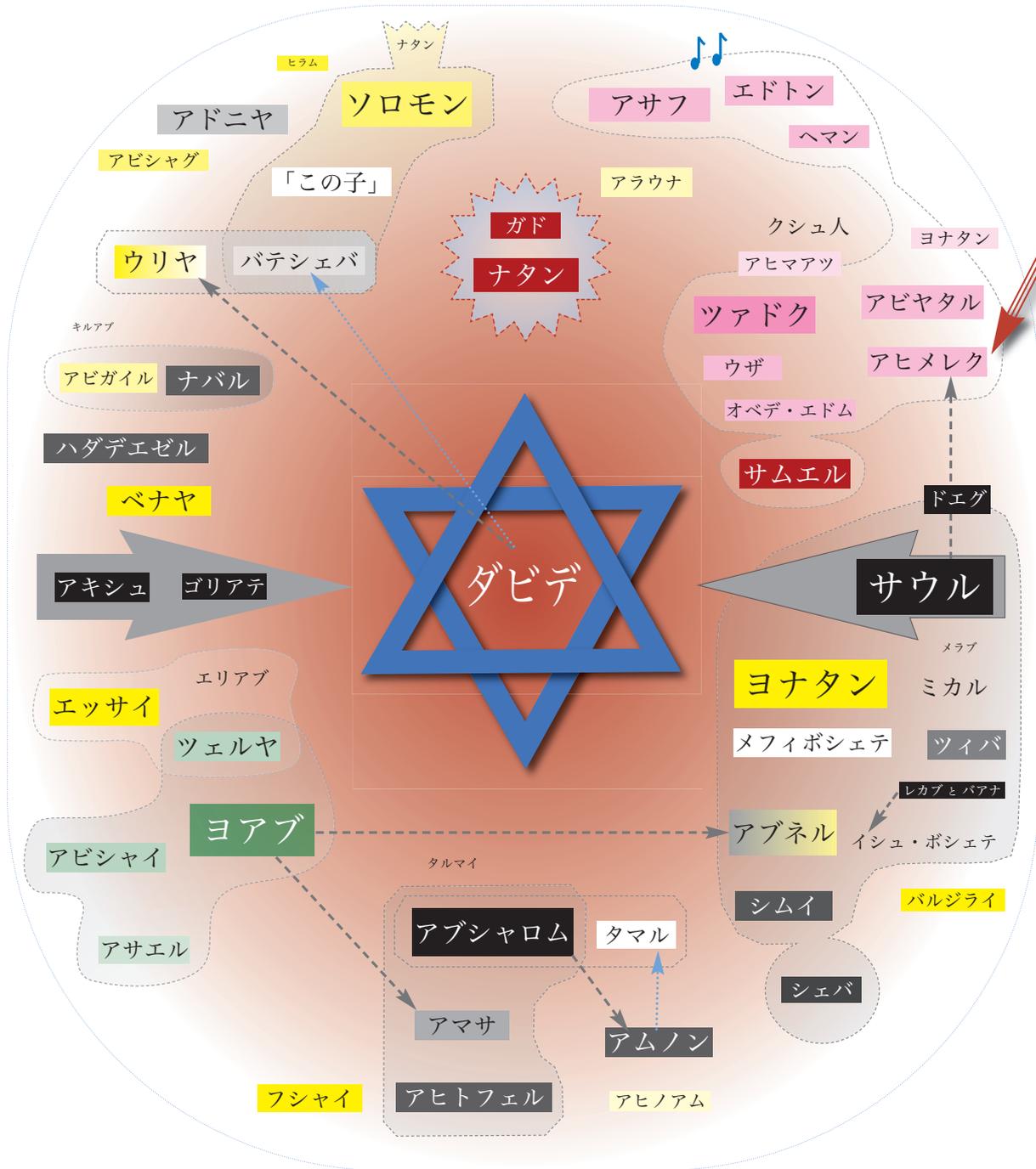


ダビデを



取り巻く人々

アヒメレクについて

1. アヒメレクはエリの子孫であり、指導的な立場の祭司でした。ヨナタンやミカルのように、彼もまたサウルとダビデの間の、危険な立場にいました。1サム21章で彼はダビデがサウルから逃れて来た時、パンを与えました。22章では彼は自分の意志でダビデの側についたのではないと主張したにもかかわらず、サウルによって殺されます。

2. アヒメレクについて考える時、もっとも難しい事は、彼がサウルとダビデの間の争いについてどれだけ知っていたかという事です。ノブはイスラエルの中心に位置していた町であり、彼の地位からしても、おそらく何かは知っていたのではないかと思われます。また21:1の質問から、彼はダビデが一人で旅をしているのはおかしいと思っていました。しかしアヒメレクがダビデについて知る術はありませんでした。後に彼はサウルに、自分は何も知らなかったと言っています(22:15)。もしそれが本当であれば、彼は潔白だったでしょう。しかし本当でなければ、彼はサウルの前で潔白ではありませんでした。どちらにしても、アヒメレクがダビデを助けた事は、良い事でした。神様はサウルの代わりにダビデを選んだ事は、彼はおそらくサムエルや他の人たちから聞いて知っていたでしょう。

3. ダビデが祭司のパンをもらって食べた事は、イエス様が安息日について教える時にマルコ2:25-26で引用しました。(アビヤタルはアヒメレクの息子で、父と共に、またその後も長い間祭司として務めました。)

4. 22章の祭司たちの悲惨な死は、明らかに、2章のエリの家に対する預言と関わっていますが、その事が直接言及されていない事は重要な事です。エリの家的事よりも、サウルの罪が強調されています。

アヒメレクを形容する言葉

彼はどんな人であったか、1サム21章と22章から考えてみましょう。下のリストを見て、彼について合っているかどうか、○△×をつけてみて下さい。それを参考にして、次のページのワークシートに、アヒメレクはどんな人だったか、書いてみましょう。

良い祭司

国の指導者の一人

ダビデの助けになった

喜んでダビデを助けた

律法主義、融通がきかない

マルコ2:25-26に言及されている

ダビデを恐れた

ダビデを疑った

ダビデに嘘をつかれた

ダビデにだまされた

十分注意深くなかった

潔白

正直、情報なし

サウルに対して忠誠心なし

公平な裁きを受けなかった

ひどい扱いを受けた

サウルに殺された

ドエグに殺された

非武装、兵士でない

祭司として守られるべきだった

自分自身を守ることができなかった

殉教者

憐れまれるべき

間接的にダビデに殺された

ウザに似ている

アヒメレク

アヒメレクは、不当な扱いをされた祭司でした。サウルは彼を正しく裁かず、ダビデを助けたという事で、彼を殺しました。サウルの家来であっても、それは祭司に対してあまりにもひどい仕打ちであると思ったほどでした。普通、王の心になわれない大祭司は、他の者に替えられましたが、決して虐殺されるはずではありませんでした。大祭司を殺すという事は、サウルやエドム人ドエグが神様に逆らった事を意味します。アヒメレクがなぜダビデを助けたか、その全容をサウルには明かさなかったかもしれません。しかしそれは、彼とノブの全ての祭司たちを殺す正当な理由にはなりません。

ダビデもまた、なぜ自分が一人で旅しているかについて、嘘をつきました。その意味で、彼もまたアヒメレクを虐待したと言えるでしょう。ダビデはそうしなければ彼は自分を助けないと思ったでしょうが、それは彼の嘘を正当化するものではありません。ダビデは後に、アヒメレクたちの死は自分の責任でもであると認めています(22:22)。さらに後で、ダビデはウザの死にも間接的に関わっていました(2サム6:6-8)。指導者の間違った決断は、無実の女性や子どもたちまで死に至らしめることがあります(22:19)。サウルとダビデは、程度の違いはあるにせよ、2人とも祭司たちの死に責任がありました。(1サム2:30-31によると、エリにも責任がありました。)

アヒメレクは...



アヒメレクは、どうすれば良かったのでしょうか？もっと注意深くなり、ダビデを助けるのを断ったら良かったですか？いいえ！ダビデを助ける事は、正しい事でした。彼は進んでそうしたものではありませんが、殉教者になりました。

彼についてのいくつかの事柄は、確かではありません。しかし、何よりもこの学びを通して私達が教えられる事は、アヒメレクに対して自己中心で罪深かったサウルのようにってはならない、という事です。